

安全データシート

作成日 2020年 2月20日
改定日 年 月 日

1.製品及び会社情報

製 品 名	サンデックスS-500J用増粘剤
会 社 名	オバナヤ・セメントックス株式会社
住 所	三重県いなべ市北勢町東村1339
電 話 番 号	0594-72-6488
F A X 番 号	0594-72-6253
担 当 部 門	製造部 工場管理課
整 理 番 号	M1105

2.危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引 火 性 液 体 : 区分2

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性／

刺激性 : 区分1

生 殖 毒 性 : 区分2

特定標的臓器／

全身毒性(単回暴露) : 区分2、区分3(気道刺激性、麻酔作用)

特定標的臓器／

全身毒性(反復暴露) : 区分1

記載のないGHS分類区分 : 該当せず／分類対象外／区分外／分類できない

GHSラベル要素



注 意 喚 起 語 : 危険

危 険 有 害 性 情 報 : 引火性の高い液体及び蒸気

重篤な眼の損傷

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

臓器の障害のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害

3.組成・成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

成 分 及 び 含 有 量 :

成分名	含有量	CASNo.	化審法
ウレタンポリマー	約 50%	非公開	—
エタノール	約 40%	64-17-5	(2)-202
イソプロピルアルコール	2.4%	67-63-0	(2)-207
1-プロパノール	4.8%	71-23-8	(2)-207

4.応急措置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所へ移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合： 汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診察／手当を受けること。
- 眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当を受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。

5.火災時の措置

- 消火剤： 霧状水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂などを用いる。
- 特有の危険有害性： 火災によって刺激性、有毒又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法： 関係者以外は安全な場所に退去させる。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
火災の場合、安全に対処できるならば漏洩を止めること。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 関係者以外は近づけない。
回収が終わるまで十分な換気を行なう。
着火源を取除くとともに換気を行なう。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
安全に対処できる場合は漏洩を止める。
密閉された場所に入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項： 漏出した物が下水、排水溝、河川に流出するのを防ぐ。
封じ込め及び浄化の方法・機材： 不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて容器に回収する。
乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。
清浄な帯電防止工具を用いて吸収したものを集める。
漏洩物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
- 二次災害の防止策： 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
危険でなければ漏れを止める。
全ての発火源を取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱い及び保管上の注意

- 取り扱い上の注意： 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／証明機器／その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋及び保護面を着用すること。指定された個人用保護具を使用すること。
- 保管上の注意： 換気の良い涼しい場所で、容器を密閉して保管すること。

8.暴露防止及び保護措置

- 管理濃度： (イソプロピルアルコール) 作業環境評価基準(2004) <= 200ppm
- 許容濃度：

成分名	許容濃度
イソプロピルアルコール	日本産業衛生学会(1987)(最大値) 400ppm 980mg/m ³ ACGIH(2001)TWA 200ppm、 STEL 400ppm(眼及び上気道刺激、中枢神経系損傷)
エタノール	ACGIH(2008)STEL 1000ppm(上気道刺激)
1-プロパノール	ACGIH(2006)TWA 100ppm(眼及び上気道刺激)

設 備 対 策 : 適切な換気のある場所で取扱う。排気／換気設備を設ける。
洗眼設置を設ける。

保護具

呼吸器の保護具 : 呼吸用保護具を着用すること。空気呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具 : 保護手袋を着用する。

眼の保護具 : 側板付普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡を着用する。
保護眼鏡／顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣を着用する。

適切な衛生対策 : 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

9.物理的及び化学的性質

物理的状態・形状・色など : 白濁水溶性液体
臭い(臭いの閾値) : 特有臭
沸点 / 初留点 : 78℃(ウレタンポリマーを除く混合液)、100℃(ウレタンポリマー)
引火点 : 14.5℃(ウレタンポリマーを除く混合液)、引火せず(ウレタンポリマー)
自然発火温度 : 371℃(ウレタンポリマーを除く混合液)、データなし(ウレタンポリマー)
比重 / 密度 : 0.93
溶解性 : 水に対して混和する。

10.安定性・反応性

安定性 : 通常の保管条件／取扱い条件において安定である。常温、常圧で安定。
危険有害反応可能性 : 蒸気は引火して爆発するおそれがある。
混触危険物質 : 酸化性物質

11.有害性情報

急性毒性(経口) : [日本公表根拠データ]
(イソプロピルアルコール)
rat LD50=5480 mg/kg (EHC 103,1990)
(1-プロパノール)
rat LD50=2200 mg/kg (環境省リスク評価第6巻,2008)

急性毒性(経皮) : [日本公表根拠データ]
(イソプロピルアルコール)
rabbit LD50=12870 mg/kg (EHC 103,1990)
(1-プロパノール)
rabbit LD50=4000 mg/kg (PATTY 5th,2001)

眼に対する重篤な損傷

／刺激性 : [日本公表根拠データ]
(エタノール)
ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2),1998 et al)
(イソプロピルアルコール)
ラビット (PATTY 6th,2012 et al)
(1-プロパノール)
ラビット 重度の刺激性 (ACGIH,2004 et al)

感 作 性 : データなし

生殖細胞変異原性 : データなし

発 がん 性 : [日本公表根拠データ]
(エタノール)
cat.1A (ACGIH 7th,2012; IARC, 2010)
(エタノール)
IARC - Gr. 1 : ヒトに対して発がん性がある
(イソプロピルアルコール)
IARC- Gr. 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない
(エタノール)
ACGIH-A3(2008) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明
(1-プロパノール)
ACGIH-A4(2006) : ヒト発がん性因子として分類できない
(イソプロピルアルコール)
ACGIH-A4(2001) : ヒト発がん性因子として分類できない

[会社固有データ]
(エタノール)

IARC では、「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある。」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓のがんの因果関係を認めた為である。

他方、ACGIH は、主として作業環境での有害性因子としてエタノールを A3(確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明の物質)に分類している。本製品に用いるエタノールは、飲用でなく、多量のばく露を想定する必要もないため、エタノール起因の発がん性を区分外とした。

生殖毒性： [日本公表根拠データ]
(エタノール)
cat.1A;human:PATTY 6th,2012
(イソプロピルアルコール)
Cat.2;PATTY 6th,2012
(1-プロパノール)
cat.2;rat:ACGIH,2007

[会社固有データ]
(エタノール)

妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを摂取したアルコール依存症の女性と関連して、胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られているが、産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、EUでも生殖毒性がある物質としては分類されていないため、エタノール起因の生殖毒性を区分外とした。

催奇形性： データなし

特定標的臓器/

全身毒性(単回暴露)： [区分1]
[日本公表根拠データ]
(イソプロピルアルコール)
中枢神経系、全身毒性(環境省リスク評価第6巻,2005)
[区分3(気道刺激性)]
[日本公表根拠データ]
(エタノール)
気道刺激性(PATTY 6th,2012)
(イソプロピルアルコール)
気道刺激性(環境省リスク評価第6巻,2005)
(1-プロパノール)
気道刺激性
[区分3(麻酔作用)]
[日本公表根拠データ]
(エタノール)
麻酔作用(PATTY 6th,2012;SIDS,2005)
(1-プロパノール)
麻酔作用(PATTY 6th,2001)

特定標的臓器/

全身毒性(反復暴露)： [区分1]
[日本公表根拠データ]
(エタノール)
肝臓(DFGOT vol.12,1999)
(イソプロピルアルコール)
血液系(EHC 103,1990)
[区分2]
[日本公表根拠データ]
(エタノール)
中枢神経系(HSDB, Access on Jun.2013)
(イソプロピルアルコール)
呼吸器、肝臓、脾臓(EHC 103,1990)

吸引性呼吸器有害性： データなし

12.環境影響情報

水生毒性(急性)： 成分データ
[日本公表根拠データ]
(エタノール)
藻類(クロレラ) EC50=1000 mg/L/96hr (SIDS,2005)

	(イソプロピルアルコール)
	魚類(メダカ)LC50>100 mg/L/96hr (環境庁生態影響試験, 1997)
	(1-プロパノール)
	甲殻類(ミジンコ)LC50=3025 mg/L/48hr (EHC102,1990)
水生毒性(長期間):	成分データ
	[日本公表根拠データ]
	(エタノール)
	甲殻類(ニセネコゼミジンコ属)NOEC=9.6 mg/L/10days (SIDS,2005)
	(イソプロピルアルコール)
	甲殻類(オオミジンコ)NOEC>100 mg/L/21days(環境庁生態影響試験, 1997)
水溶解度:	(エタノール)
	混和する(ICSC,2000)
	(イソプロピルアルコール)
	In water, infinitely soluble(25°C)(HSDB,2013)
	(1-プロパノール)
	100g/100ml (PHYSROP_DB,2005)
残留性/分解性:	(エタノール)
	急速分解性あり(BODによる分解度:89%(既存点検,1993))
	(イソプロピルアルコール)
	急速分解性あり(BODによる分解度:86%(既存点検,1993))
生体蓄積性:	(エタノール)
	log Pow=-0.32 (ICSC,2000)
	(イソプロピルアルコール)
	log Pow=0.05 (ICSC,1999)
	(1-プロパノール)
	log Pow=0.25 (ICSC,1999)
土壌中の移動性:	データなし
オゾン層への有害性:	データなし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物:	環境への放出を避けること。
汚染容器:	内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。 廃棄する場合は内容物を完全に除去した後処分する。

14.輸送上の注意

国連分類:	クラス3
国連番号:	1987
P G:	II
緊急時応急措置指針番号:	127
陸上輸送:	消防法、労働安全法に定められる運送方法に従うこと。
海上輸送:	船舶安全法に定められるところに従うこと。
航空輸送:	航空法に定められるところに従うこと。
輸送又は輸送手段に関する特定の安全対策及び条件:	容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめ、衝撃、転倒、落下のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
環境有害性:	MARPOL 条約付属書Ⅲ-個品有害物質による汚染防止 海洋汚染物質:非該当
バルク輸送における MARPOL 条約付属書Ⅱ 改訂有害液体物質及び IBC コード	有害液体物質(Y類) 1-プロパノール 有害液体物質(Z類) イソプロピルアルコール、エタノール

15.適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則／法令、毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法：有機溶剤中毒予防規則に該当しない。

名称等を表示すべき有害物(法第57条)

エタノール、イソプロピルアルコール、1-プロパノール

名称等を通知すべき有害物(法第57条の2)

エタノール、イソプロピルアルコール、1-プロパノール

別表第1危険物(第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・引火性の物

化学物質管理促進法

(PRTR法)：該当しない。

消防法：危険物第4類 引火性液体アルコール類 危険等級Ⅱ

化審法：優先評価化学物質(法第2条第5項)

イソプロピルアルコール

船舶安全法：引火性液体類

航空法：引火性液体

16.その他情報

本データシートは作成時又は改訂時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱い情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行なってください。
